

めぐみ厚生センター恵友会 報

第315号

めぐみ厚生センター恵友会

| | |
|-------|--------------|
| 法人本部 | 0952-25-2797 |
| めぐみ園 | 0952-34-7722 |
| 富士学園 | 0952-63-0107 |
| ウイズ富士 | 0952-51-0063 |

発行人 副島 勉

郵便振替 事務局長 めぐみ厚生センター恵友会 口座番号： 01770-6-12389
〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722

『共に生き、共に喜ぶということ』



恵友会 会員

古賀 洋子



「みんなちがって、みんないい」金子みすずの「私と小鳥と鈴と」という詩の一節です。一時期、毎日のように私達の目や耳に入ってきていました。自分と他の人は、夫々に違うけれども、夫々に大切な存在であることを確認し合えたかのようでした。障がいを持って生き辛さを覚えている人々に対する、国の仕組みも少しずつ好転していくようでした。

現実、どうでしょうか？
私が、めぐみ園の職を辞して、約20年。その間、数力所の福祉施設での働きを与えられました。福祉を取り巻く環境が変化していく中で、多くのことを考えさせられ、今もその中に入ります。「措置費」が「支援費」に「養護学校」が「特別支援学校」に「放課後等デイサービス」「共生ホーム」などの新しい制度。従来の制度の呼称を変えて、対象となる人達の生活が、更に息苦しくはならなかったでしょうか。新制度発令後、「福祉」を熟知しない企業の介入により、どれ程多くの子供達や家族が振り回されておられることでしょうか。

そのような中で、この国は地震、津波、台風により、今まで想像もしなかった程の被害を受けました。更に東北では「原発」という「人災」が起きてしまいました。その傷跡は今だに癒えずにいます。熊本地震では佐賀も少なからず影響を受けました。その熊本市の大学の取り組みが、クローズアップされました。災害時の避難所は、市町村で指定されていて、障がいのある

人達は「福祉避難所」に行くことになります。けれども、その時の統括責任者である教授(水俣学研究センター長)は、「それは違うと思った。地域で暮らしているのだから、災害時その地域の避難所に、共にいるのが当然です」と。

最大時750名の避難者の内、障がいのある人は60名おられたとのことですから、対応は生易しいものではなかったと思います。多くの学生が、ボランティアとして活躍したそうです。使用する人の意見や希望を聞きながら段ボールベッドを作ったり、トイレ用の水運び、掃除、食事の準備等々。それらのことを悲憤感を漂わさず、楽しげにやっていたとのこと。若し人の力は信用すべきだと思いましたが、と教授の言葉。真正正銘の「インクルーシブル」です。

この春、恵友会の幹事という役割を頂きましたが、出来の悪い職員であった私が、20年経ち、戻ったとしても何もお役に立てないと思いで一杯でした。けれども、在職中のことを思い起こし、栗林眞吾先生・ミサ先生(二人共故人・めぐみ厚生センターの創業者)の厳しくも愛に溢れた指導を、直接受けた一人として、厚生センターの応援団の仲間入りをさせて頂きました。めぐみ園の礎である眞一さん(故人・栗林夫妻のお孫さんで脳性麻痺がありました)が、「僕のお友達に住めるお家を作ってください」の言葉でめぐみ園が建てられました。のお姿も、語り継ぎたいのです。障がいのある子供の学校教育は、今でも当然のように進められています(それでも地域の学

校ではなく「特別支援学校」ですが)。めぐみ園では、「就学免除」という体のいい文言で、地域学校への通学を拒まれた子供達のために「学校」が創られました。どこよりも早く、です。50年以上も前のことです。創立者の思いの深さと先見の明(お二人には時代の先取りなどということとは全くなく、目の前の子供達にその時に必要であるとお考えだけだったに違いありません)に敬服し、感謝の念が今更のように沸き上がります。

間もなく、創立70周年を迎えるめぐみ厚生センターです。佐賀県、九州は言うに及ばず、日本の「障がい者福祉」の先駆的位置にあります。富士学園80名、めぐみ園80名、グループホーム74名、ウイズ富士58名、どりいむ・地域活動支援センター34名、居宅支援39名(在宅者のみ)、放課後等デイサービス18名、相談支援166名(在宅者のみ)、500名を越す皆さんの応援団である恵友会も同様です。先にも述べたように、福祉環境は良好ではありません。むしろ厳しくなっています。恵友会として出来ることは何であるかを把握していくことも大切です。災害時の動きについて、特に丁寧に進める必要があると考えます。先述の熊本の避難所のことですが、統括責任者が、水俣病についての研究(水俣学の教授と)言うことで「命の価値を中心に、弱者の立場に立つ学問」であり、その実践がなされたのです。

めぐみ厚生センターは「共に生きる」ことが出来ます。制度上、整っていない事についても、利用者の方々に必要なことであるならば、まず実践です。創立者に倣って、制度化を待つだけでなく、仕掛ける積極性が、利用者の皆さんの日々に関わりをもたらすのではないのでしょうか。利用者、家族、職員、恵友会、夫々が違いを認め合い、共に生き、共に喜ぶ日が続いていくことを、心から祈ります。



◎新入会ありがとうございます

ございました。

平成30年10月31日現在

(敬称略)

小宮 礼、池田 渚

◎会費納入ありがとうございます

ございました。

平成30年10月31日現在

(敬称略)

大内道雄、平野弘治、大塚恒順
桑原義勝、古賀保弘、佐藤忠志
高野勝美、勘田 勲、平 栄喜
嶋原貞雄

※右記10名様は9月中に入金がありました
が、確認が遅れ今月号でのご紹介となりま
す。

富士学園家族会1名
小宮 礼、池田 渚

❖会費納入について❖
会費は年間2000円で
す。

今年度分の納入がお済み
でない方は納入をお願い
致します。



〓お詫びと訂正〓

前号314号の大坪洋継様の原稿
で、2段目右から3行目の漢字に誤
りがありました。
頁↓頁へ訂正をお願い致します。
大坪様にはご迷惑をおかけし、申し
訳ございませんでした。

(編集局)

☆平成の思い出☆

『平成』の時代が
終わりに近づいて
います。

皆様にとって『平成』はどんな
30年だったでしょうか？

～めぐみ厚生センター・恵友会の『平成』を振り返りましょう～

おさらい!



めぐみ厚生センターは1950年10月1日 めぐみ園が佐賀市赤松町西堀端の仮住居にて開所

1955年5月30日 めぐみ園が多布施に移転

1967年2月1日 富士学園がめぐみ園内に開園

平成1年(1989年)12月 福祉ホーム「オリーブ寮」開設

平成8年(1996年)10月 富士学園(富士町)新園舎完成

平成14年(2002年)12月 GH「ピースハイム高木瀬」開設

平成15年(2003年)10月 GH「ピースハイム富士」開設

平成16年(2004年)1月 めぐみ園が東与賀町に移転・生活介護事業所「どりいむ」開設

10月 生活介護事業所「ウイズ富士」

GH「ピースハイム富士II・川久保・多布施・鍋島」開設

平成18年(2006年)4月 GH「ピースハイム金立」開設

10月 地域活動支援センター設置(めぐみ園内)・GH「ピースハイム緑小路」開設

平成22年(2010年)4月 児童デイサービス(現:放課後等デイサービス)「はっぴい」開設

平成23年(2011年)4月 居宅介護事業所「きらら」開設

平成25年(2013年)4月 相談支援事業所「ひまわり」「カノン」開設

※注) GHは「グループホーム」のことです。



喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい
互いに重荷を担いなさい
隣人を自分のように愛しなさい

おさらい!

恵友会は1981年(昭和56年)9月発足。

今年で37年目を迎えました。



☆恵友会主催の「ふれあいの広場」は1983年(昭和58年)
11月に第1回目をスタートし、現在は、めぐみ園・富士
学園・ウイズ富士『夏祭り』に協賛しています。

☆会報誌は1983年(昭和58年)9月に第1号を発行し、今
号で315号となりました。

☆毎年1回、会員の親睦と障害福祉の研修を兼ね、視察研修を
実施し、利用者の方・会員の皆様との交流の場となっていま
す。今年度は、「ウイズ富士」の視察研修を行いました。



平成8年(1996年) 恵友会総会



平成23年(2011年) 恵友会30周年記念コンサート



平成30年(2018年)7・8月
センターの夏祭りに協賛!